

『当たり前』のことが一番大切
仕事に出かけて、『無事に帰ってくる』…、そして、『ただいま』と家のドアを開ける

「構内」事故の防止 (バック事故多発…後方の安全確認)

狭い道でのすれ違い時は、車両停止の徹底 (無理して先に進まない)

雪山で見えにくい時は…身を乗り出して確認 ! 雪山の陰からの飛び出し注意 !

見落とすな! 『一時停止の標識』
確実な『一時停止』と左右の安全確認

交差点 信号が、「青」に変わった! チョット待て! もう一度、安全確認しよう

車間距離を十分に! 追突を未然に防止

交差点は、気配り・目配り、危険予知

- 右左折時は、交差点中央で一旦停止、最徐行で進行
- 左折時は、ハンドルを切る手前で、安全確認の徹底
- イエローストップ運動の徹底 (黄色信号は、「止まれ」)
- 助手席の安全窓の視界確保と車内清掃の徹底

- 駐停車車両の陰から…出てくるかも知れません、注意しましょう
- 右折する時は、歩行者をしっかり確認しましょう
- 『左折巻き込み事故』に注意しましょう

車両側が黄色点滅、歩行者用の信号機は停止(消灯)していた

夜間は信号機が機能制限される交差点 乗用車にはねられた横断者が死亡
「通行量が少ないので、国道側の通行を優先させる」という考えなのかもしれないが…
点滅信号というのは、運転者が軽視しやすいものでもある

2018.3.15

14日午後9時15分ごろ、秋田県の国道で、交差側の通行量が減る夜間の時間帯に信号機の機能が制限された交差点で、横断者がクルマにはねられる事故が起きた。歩行者の高齢男性が死亡。横断歩道を渡っていたが、歩行者用の信号機は停止していたという。

現場の信号機は交差側の交通量が減る夜間(午後9時以降)は機能制限されており、事故当時は車両側が黄色点滅、歩行者用の信号機は停止(消灯)していた。警察では双方の安全確認に怠りがあったものとみて、事故発生の経緯を詳しく調べている。

交差する市道の通行量が減るため、午後9時以降は国道側を黄色点滅状態として、歩行者信号は機能を停止させてしまうという交差点で事故は起きた。「通行量が少ないので国道側の通行を優先させる」という考えなのかもしれないが、点滅信号というのはクルマの運転者が軽視しやすいものでもある。

危険な「あおり運転」 免停30日 進路を譲ってくれなかったことなどに腹を立て

2018/3/15(木) 17:00

静岡県公安委員会は15日、危険な「あおり運転」を繰り返したなどとして、40代男性会社員を30日間の運転免許停止処分にした。県警運転者教育課によると、男性は昨年11月、乗用車を運転中、国道バイパスに流入しようとした際に、走行中の軽乗用車が進路を譲ってくれなかったことなどに腹を立て、あおり運転を繰り返すなどした上、鉈やのこぎりを持って軽乗用車の運転者を脅したとされる。男性は銃刀法違反の疑いで摘発された。公安委員会は男性が運転により交通に著しく危険を生じさせる恐れがある「危険性帯有者」と判断。道交法は将来的に事故を起こす可能性があると判断した運転者に対し、交通違反による点数の累積がなくても最長180日間の免許停止ができる規定している。同課は「悪質・危険な運転は今後も厳しく取り締まる」としている。警察庁が今年1月、全国の警察に対し厳正な捜査の徹底と積極的な免許停止の行政処分の実施を求める通達を出した。

信号機がない、見通しの悪い交差点

配達途中のトラックと衝突 原付バイクの女性、意識不明の重体 原付バイク側に、『一時停止』の標識
◇交差点、相手は止まらないかもしれない、『最徐行』◇

2018/3/15(木) 16:01

15日午前8時ごろ、熊本県の町道交差点で高齢女性(80)が運転する原付バイクと配達途中のトラックが衝突する事故がありました。原付バイクの女性は意識不明の重体です。現場は信号機がない見通しの悪い交差点で原付バイク側には一時停止の標識が設置されています。

信号のない交差点 横断歩道上で自転車と衝突、男性が意識不明の重体 自転車は10メートルほど飛ばされていて、乗用車がスピードを出し過ぎていた可能性

2018/3/15(木) 18:37

15日午前7時40分ごろ、愛知県の信号のない交差点で横断歩道を渡っていた自転車に乗用車が衝突し、自転車に乗っていた会社員の男性が意識不明の重体です。警察によりますと、自転車は10メートルほど飛ばされていて、乗用車がスピードを出し過ぎていた可能性があるということです。警察は、乗用車を運転していた会社員の女性容疑者(33)を過失運転傷害の疑いで現行犯逮捕しました。